

平成24年3月期 本決算説明会

平成24年5月15日



ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents

- 
- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 24年3月期業績の総括 | 12. 25年3月期通期見通し |
| 2. 24年3月期の概況 | 13. 計測・計量機器事業 見通し-1 |
| 3. 計測・計量機器事業 実績-1 | 14. 計測・計量機器事業 見通し-2 |
| 4. 計測・計量機器事業 実績-2 | 15. 医療・健康機器事業 見通し-1 |
| 5. DSP事業の業績 | 16. 医療・健康機器事業 見通し-2 |
| 6. 医療・健康機器事業 実績-1 | 17. 熱交換器システム |
| 7. 医療・健康機器事業 実績-2 | 18. タイヤ転がり抵抗試験機 |
| 8. 財務分析(貸借対照表)① | 19. 業務用体重計AD-6209/6210 |
| 9. 財務分析(貸借対照表)② | 20. 計量環境ロガーAD-1687 |
| 10. 財務分析(キャッシュフロー) | 21. コンティニユア規格対応パーソナル血圧計 |
| 11. 設備投資・減価償却費の推移 | 22. 補足資料 |

24年3月期業績の総括

ハイライト

- **計測・計量を中心に堅調な売上を継続、加えて
DSP機器が下半期以降、大幅に回復**
- **国内売上の増加に伴い、原価率が改善し、営業
損益・経常損益が伸長**
- **DSP事業は上期は震災の影響で自動車関連を
中心に大型の設備投資が見送られ、一時的に落
ち込んだが、下期に入ると凍結されていた案件
が再開し、大きく伸長**

24年3月期の概況

(単位：百万円)

連結損益	23/3期 (実績)			24/3期 (実績)	前期比	24/3期 予想	予想比	コメント
		上期	下期					
売上高	30,669	13,905	17,063	30,968	1.0%	30,200	2.5%	
売上原価	16,650	7,387	9,246	16,633	-0.1%	16,065	3.5%	
販売費及び 一般管理費	13,465	6,577	6,785	13,363	-0.8%	13,135	1.7%	
営業利益	555	-59	1,031	971	75.2%	1,000	-2.9%	
経常利益	294	-379	1,081	702	138.4%	500	40.4%	期末円安により経常利益 が増加
税引き前 利益	319	-401	1,050	649	103.5%	476	36.3%	
当期 純利益	538	-491	1,066	574	6.8%	230	149.8%	繰延税金資産の追加計上 により純利益が増加
1株当たり 利益(円)	26.73	-24.35	52.79	28.44	6.4%	11.39	148.7%	

(注) 24年3月期予想は、11月4日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表した予想
であります(以下同じ)。

計測・計量機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		23/3期 (実績)			24/3期 (実績)	前期比	24/3期 予想	予想比
			上期	下期				
計測・計量 機器事業	売上	17,214	8,154	9,852	18,006	4.6%	17,540	2.7%
	売上原価	10,009	4,526	5,593	10,119	1.1%	9,773	3.5%
	販管費	7,287	3,635	3,655	7,290	0.0%	7,199	1.3%
	営業利益	-83	-7	605	598	－	568	5.2%

1. 計測機器・計量機器・DSPを中心に堅調な業績推移

⇒売上は前期比4.6%増（通期）

2. 国内売上の増加により、原価率改善（前期58.1%→当期56.2%）

⇒営業利益が通期で黒字転換

計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	23/3期 (実績)			24/3期 (実績)	前期比	24/3期 予想	予想比
		上期	下期				
計 測 機 器	3,033	1,598	1,737	3,335	9.9%	3,630	-8.1%
計 量 機 器	10,294	5,283	5,442	10,725	4.2%	10,650	0.7%
計測・制御・シミュレーションシステム(新規)	3,325	1,048	2,313	3,360	1.0%	2,800	20.0%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	562	226	360	586	4.4%	460	27.4%
売 上 合 計	17,214	8,154	9,852	18,006	4.6%	17,540	2.7%

計測機器 : 物性試験機及びSP商品(温度計等)を中心に順調に回復

計量機器 : 前期に引き続き全体的に堅調に推移

DSP : 下期以降、自動車関連を中心に顕著な伸びをみせている

電子ビーム関連ユニット : 徐々にではあるが回復基調を継続

DSP事業の業績

(単位：百万円)

	用 途 種 別	22/3期 (実績)		23/3期 (実績)		24/3期 (実績)	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
新 規 事 業	自 動 車 関 連	880	1,396	1,461	1,272	872	2,011
	試 験 機 関 連	29	59	41	45	45	46
	そ の 他	127	176	117	389	131	255
	小 計	1,036	1,630	1,619	1,706	1,048	2,313
既 存 事 業 へ の D S P 技 術 応 用	特殊試験機関連	8	135	39	265	97	191
	計量制御関連	48	82	53	59	38	58
	医 療 機 器						3
	小 計	56	217	93	324	134	251
合 計		1,092	1,847	1,712	2,030	1,182	2,563
売 上 合 計 (通 期)		2,940		3,742		3,745	

国内は、上期は震災の影響で自動車関連を中心に大型の設備投資が見送られ、一時的に落ち込んだが、下期に入ると凍結されていた案件が再開し、大きく伸長した。

医療・健康機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		23/3期 (実績)			24/3期 (実績)	前期比	24/3期 予想	予想比
			上期	下期				
医療・健康 機器事業	売上	13,456	5,751	7,210	12,961	-3.7%	12,660	2.4%
	売上原価	6,529	2,891	3,543	6,434	-1.5%	6,322	1.8%
	販管費	5,015	2,350	2,538	4,889	-2.5%	4,759	2.7%
	営業利益	1,912	510	1,129	1,638	-14.3%	1,579	3.8%

1. 海外市場が中心の家庭用血圧計は、円高の影響により円換算で売上が目減り

⇒通期では売上高は前期比3.7%の減少

2. 中国工場の人件費の上昇等により原価率が上昇（前期48.5%→当期49.6%）

⇒営業利益は前期比14.3%減少

医療・健康機器事業 実績－2

(単位：百万円)

製 品 種 別	23/3期 (実績)			24/3期 (実績)	前期比	24/3期 予想	予想比
		上期	下期				
医 療 機 器	2,180	1,074	1,315	2,389	9.6%	2,220	7.6%
健 康 機 器	11,275	4,676	5,896	10,572	-6.2%	10,440	1.3%
売 上 合 計	13,456	5,751	7,210	12,961	-3.7%	12,660	2.4%

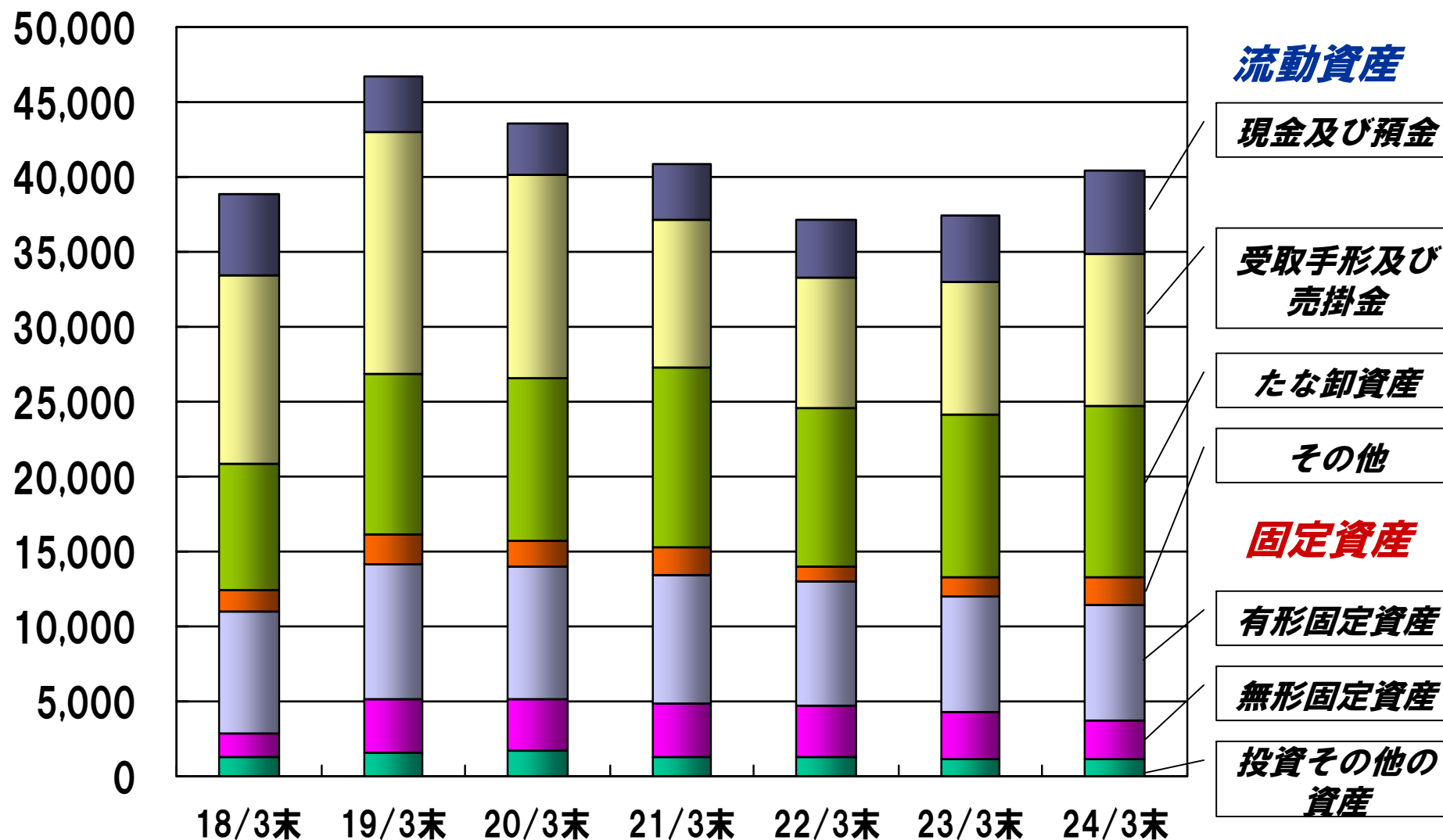
医療機器：国内は前期に引き続きメディカル計量器がシェアを伸長、これに伴うブランド認知度の向上により、他の医療器の売上も上向きに。

健康機器：国内は大口契約の終了もあり、やや不振。海外向けも円高の影響により円換算で売上が目減り（現地通貨ベースでは伸長）

財務分析（貸借対照表）

■ 貸借対照表分析 資産の部

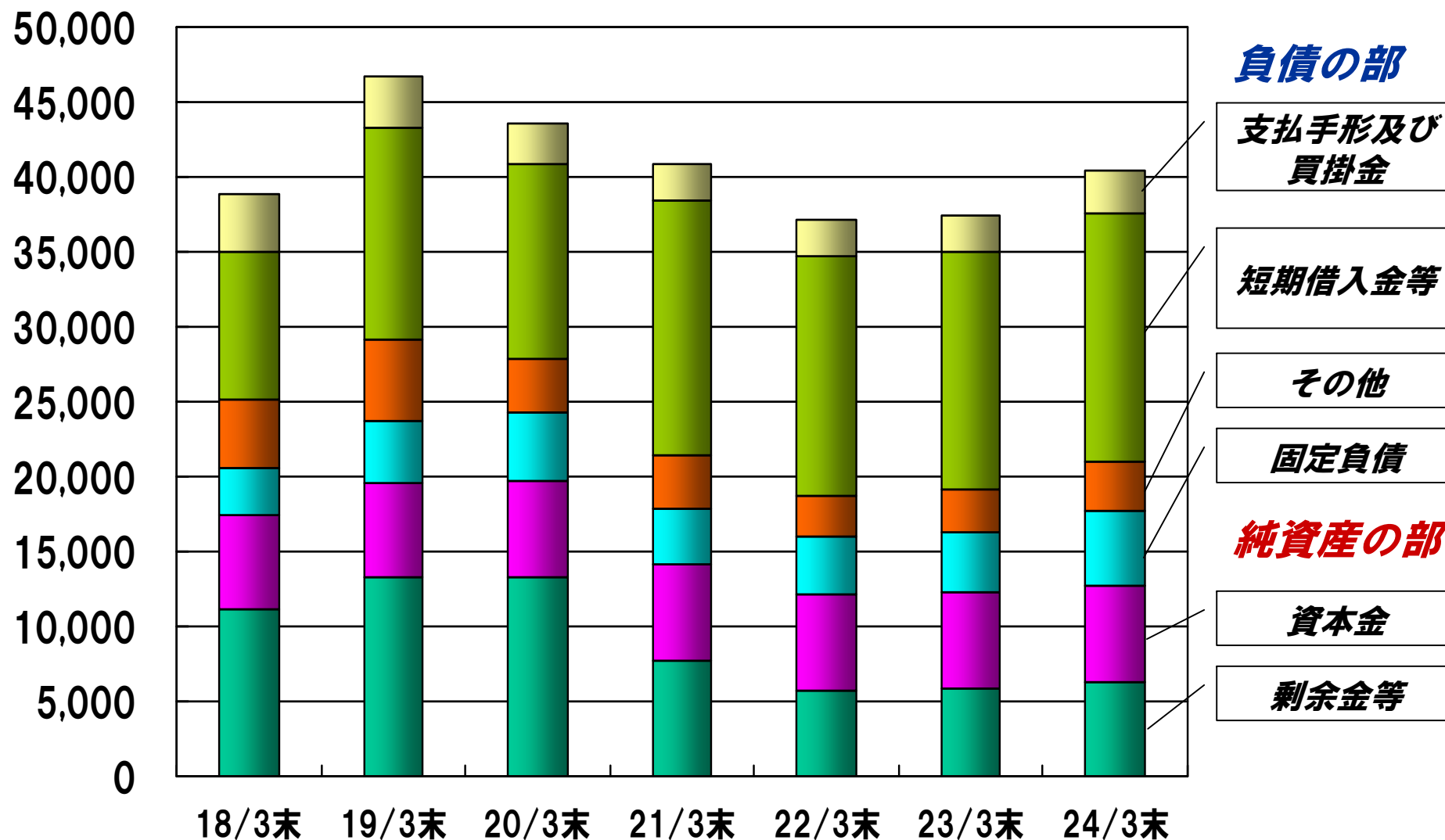
（単位：百万円）



財務分析（貸借対照表）

■ 貸借対照表分析 負債・純資産の部

（単位：百万円）



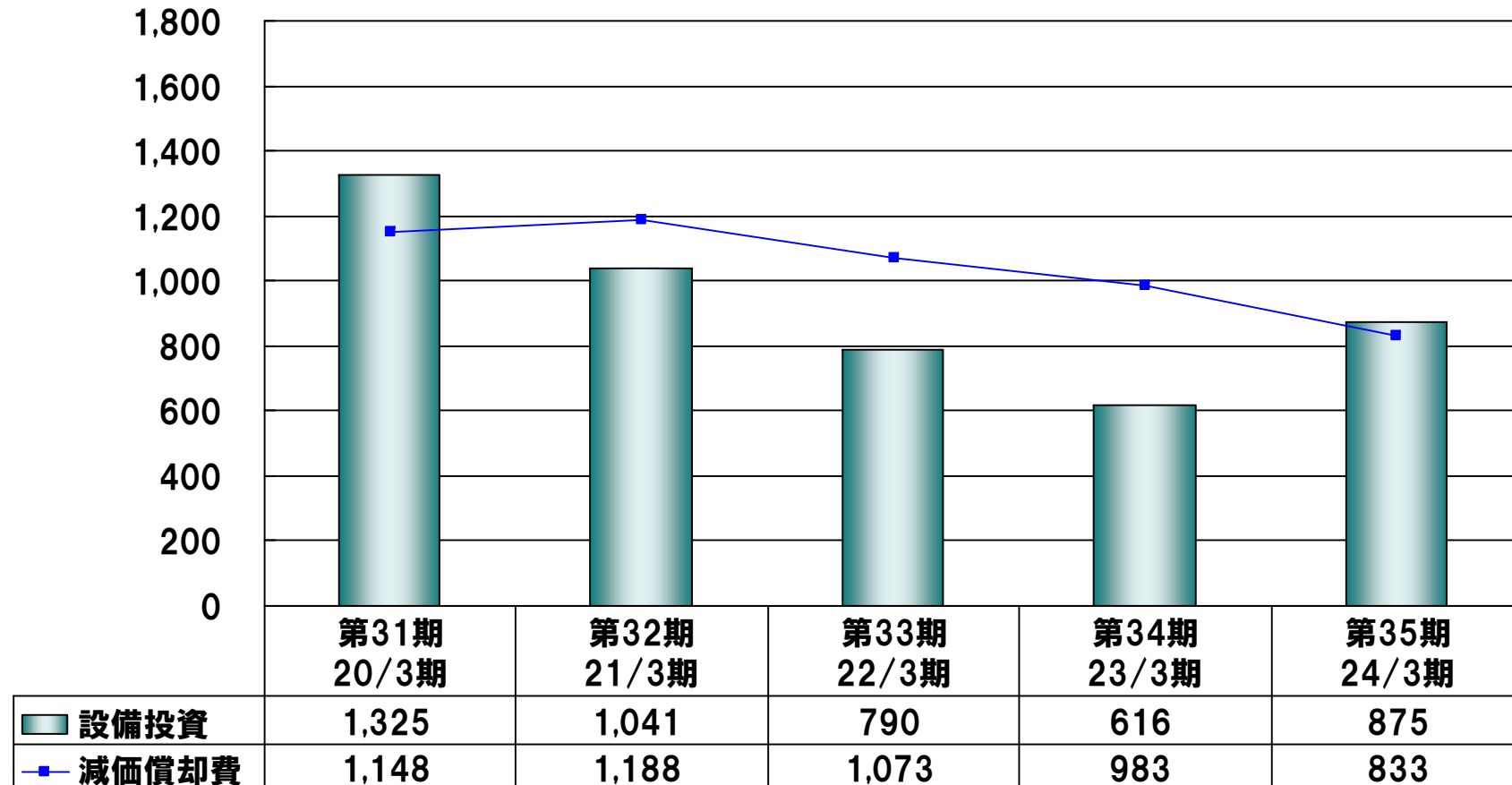
財務分析（キャッシュフロー）

■ キャッシュフロー分析

連 結 キャッシュフロー	23/3期 (実績)	24/3期 (実績)	コ メ ン ト
営 業 活 動 に よ る C F	1,100	947	税金等調整前当期純利益+648、 減価償却費+1,215、 売上債権の増加額▲1,236、 棚卸資産の増加額▲626
投 資 活 動 に よ る C F	△682	△1,341	有形固定資産の取得による支出▲760 無形固定資産の取得による支出▲261
財 務 活 動 に よ る C F	391	1,595	長期借入れによる収入+1,730
現金及び現金同等物の 増 減 額	707	1,140	
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	3,553	4,694	

設備投資・減価償却費の推移

(単位：百万円)



注) 上記、設備投資額及び減価償却費は固定資産に対するもののみ集計しております

受注及び売上の回復に伴い、設備投資が増加

25年3月期通期見通し

(単位：百万円)

連 結 損 益	24/3期 (実績)			25/3期 (予想)	前期比
		上期	下期		
売 上 高	30,968	15,400	18,600	34,000	9.8%
売 上 原 価	16,633	8,140	10,160	18,300	10.0%
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	13,363	7,040	7,060	14,100	5.5%
営 業 利 益	971	220	1,380	1,600	64.7%
経 常 利 益	702	40	1,190	1,230	75.2%
税 引 き 前 利 益	649	38	1,188	1,226	89.0%
当 期 純 利 益	574	0	940	940	63.6%
1 株 当 た り 利 益 (円)	28.44	0.00	46.48	46.48	63.4%

計測・計量機器事業 見通しー1

(単位：百万円)

セグメント		24/3期 (実績)	上期	下期	25/3期 (予想)	前期比
計測・計量 機器事業	売 上	18,006	9,260	10,960	20,220	12.3%
	売 上 原 価	10,119	5,180	6,280	11,460	13.3%
	販 管 費	7,290	3,840	3,820	7,660	5.1%
	営 業 利 益	598	240	860	1,100	84.1%

1. 売上

回復基調が鮮明な計測機器・DSP事業を中心に、前期比12.3%の売上増加を見込む

2. 売上原価・販管費

DSP機器や試験機の標準化を進めることで製造原価の更なるコストダウンを図り、営業利益の拡大を目指す

計測・計量機器事業 見通し-2

(単位：百万円)

製 品 種 別	24/3期 (実績)			25/3期 (予想)	前期比
		上期	下期		
計 測 機 器	3,335	1,490	2,310	3,800	14.0%
計 量 機 器	10,725	5,590	5,650	11,240	4.8%
計測・制御・シミュレーションシステム(新規)	3,360	1,860	2,620	4,480	33.3%
電子ビーム関連ユニット	586	320	380	700	19.4%
売 上 合 計	18,006	9,260	10,960	20,220	12.3%

計測機器

：設備投資の回復が現れてきた大型試験機の拡販

計量機器

：流通ルートに応じた製品開発、シェアの優位性を生かした市場拡大
新興国向けボリュームゾーン製品の開発および拡販

DSP

：幅広い技術力と製品群を活かし多様なユーザーニーズへの対応

電子ビーム関連ユニット：電子ビーム等を利用した応用市場を開拓

医療・健康機器事業 見通しー1

(単位：百万円)

セグメント		24/3期 (実績)			25/3期 (予想)	前期比
			上期	下期		
医療・健康 機器事業	売上	12,961	6,140	7,640	13,780	6.3%
	売上原価	6,434	2,960	3,880	6,840	6.3%
	販管費	4,889	2,590	2,630	5,220	6.8%
	営業利益	1,638	590	1,130	1,720	5.0%

1. 売上

新製品の投入、新興市場の開拓等により、売上は前期比6.3%増を見込む

2. 売上原価・販管費

人民元高および中国工場の人件費の増加等、原価上昇要因はあるが、生産自動化の推進で原価率維持を目指す

⇒営業利益は前期比5.0%増加を見込む

医療・健康機器事業 見通しー2



(単位：百万円)

製 品 種 別	24/3期 (実績)			25/3期 (予想)	前期比
		上期	下期		
医 療 機 器	2,389	1,200	1,380	2,580	8.0%
健 康 機 器	10,572	4,940	6,260	11,200	5.9%
売 上 合 計	12,961	6,140	7,640	13,780	6.3%

医療機器：・メディカル計量器のシェアアップによるブランド認知度の向上をてこに、医療機器全体の拡販を図る

- ・栄養管理治療への保険点数付与（医科向け計量器需要）等、市場ニーズを的確に捉えて営業を展開する

健康機器：・ロシアにおいては競争優位性の確保、新興市場の開拓促進

- ・IT技術活用により、近年欧米を中心に活発となってきた在宅医療および医療ICT（Information Communication Technology：情報通信技術）向け機器分野での売上伸張を図る

トピックス 1 ～熱交換器システム



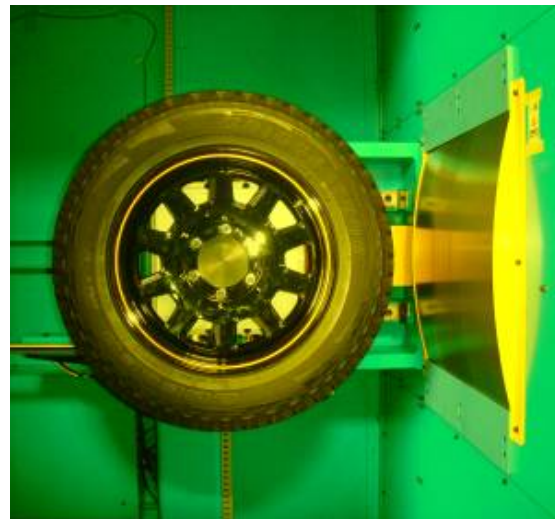
- ◆ここ数年開発に取り組んできました「熱交換器システム」は、高精度を要求される領域において、各自動車関連メーカーから好評を得ており、順調に売上を伸ばしております。
- ◆自動車の低燃費化は、様々な観点から非常に重要なテーマとして、各自動車関連メーカーは開発にしのぎを削っております。この状況において、開発期間の短縮を実現する試験システムの要求は、高まるばかりです。
- ◆この状況において、モデル制御を駆使した「熱交換器システム」はベンチ試験において、温度過渡の試験を可能にし開発の効率化に大いに貢献しております。
- ◆更なる性能及び品質の向上に努め、製品ラインナップを広げる事により、市場ニーズに応えて行きます。

トピックス2～タイヤ転がり抵抗試験機

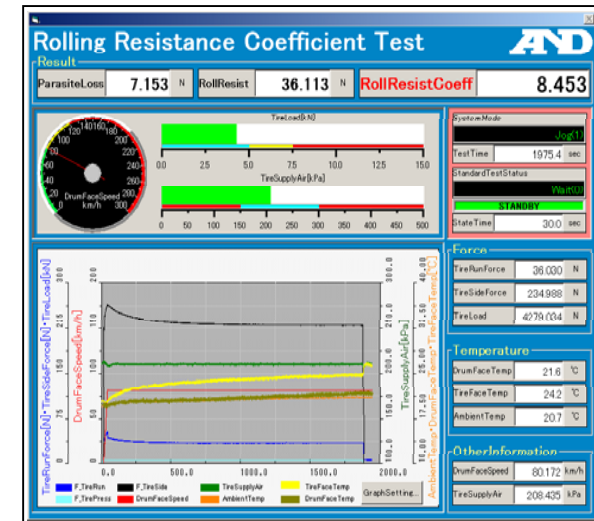
- ◆ タイヤ転がり抵抗は日本においては2010年に業界自主基準となるラベリング制度が施行されましたが、それに続いてEUにおいて2011年7月に同様の制度が施行され、更に、2012年11月には法規制化されます。
- ◆ A & D 転がり抵抗試験機は昨年の発表以来、国内タイヤメーカー各社より受注し、海外メーカーからの引合いもいただいています。
- ◆ 装置としては、乗用車用、バス・トラック用、両用と、バリエーションを広げ、これらの需要に対応しています。
- ◆ また、装置としての標準化を進め、より、ローコスト化、高性能化を図ってまいります。



納入機近影



測定チャンバー内



測定画面

トピックス3～業務用体重計 AD-6209/6210

バリアフリー薄型体重計

検定付きで病院や学校の検診に最適



- ・ 昇降時に負担が少ない最薄部 6 8 mmのスマートな軽量部
- ・ 色弱の方でも認識が容易なカラーリングと表示デザイン
- ・ 人が近づくだけで自動的にスイッチオン
- ・ 専用スタンドで未使用時はスッキリ収納



トピックス4～計量環境ロガー AD-1687

 **天びんの計量値と室内の温度・湿度・気圧・振動・時刻を同時に記録**

温度・湿度・気圧などの環境条件は、天びん・はかりの計量結果に影響を及ぼしますが、特に微量な計量を行う大学・研究機関・開発の現場などでは、天びん・はかりの他に温湿度計や気圧計などをそれぞれ所有し、計量データと同時に、環境条件についても記録している状況です。

そこで一つの機器で全ての記録を行えるよう、様々なセンサーを一つにまとめ、環境も含めた計量結果に高い信頼性をお求めの天びん・はかりユーザーのニーズに応えたものが計量環境ロガー AD-1687です。

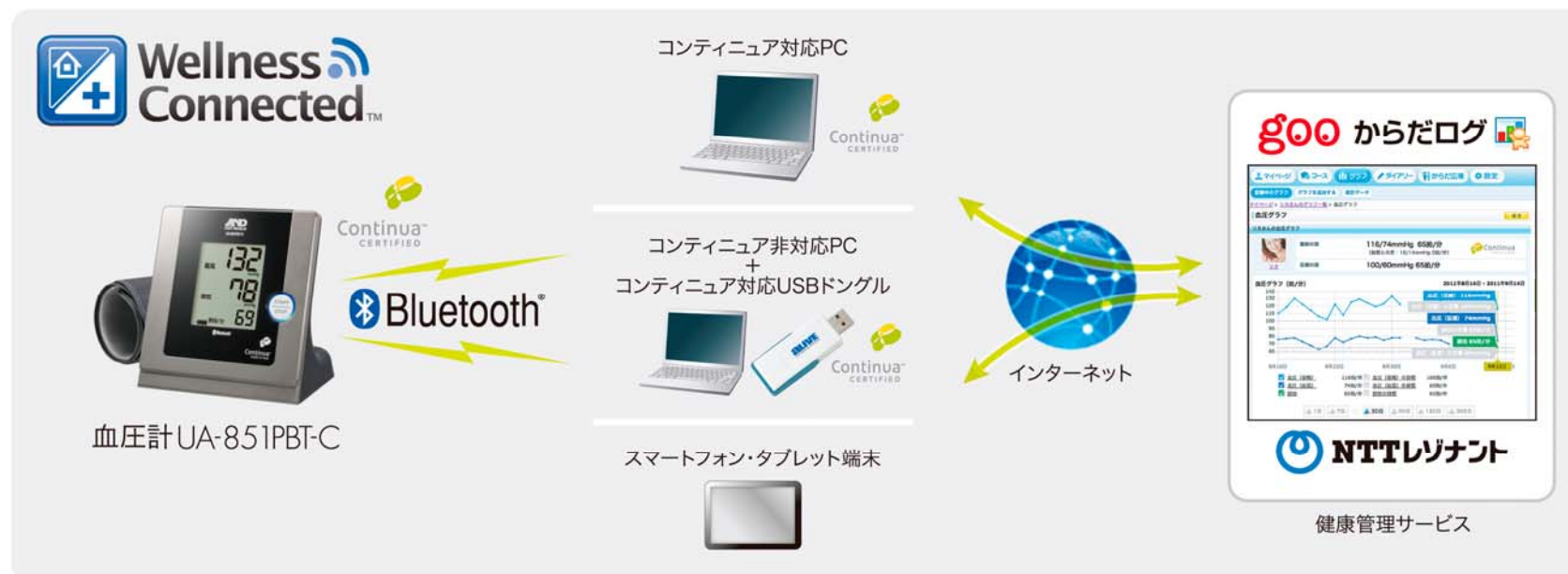


トピックス5～コンティニュー規格対応パーソナル血圧計

業界初、一般消費者向けコンティニュー対応&Bluetooth内臓血圧計

血圧を測り終わると自動的にコンティニュー規格対応のパソコンやスマートフォン（予定）などの情報端末へ、測定データをワイヤレスで確実に送信します。

測定データはNTTレゾナント社のインターネット健康管理サービス“goo からだログ”に記録され、血圧データをグラフや表で管理でき、血圧データに対するコメントや専門家によるアドバイスが得られる血圧コンシェル機能、血圧データをメールで自動的にご家族にお知らせする見守りメール機能も利用可能です。



日頃から血圧測定を行い記録することで、血圧変動が捉えられ、病気の早期発見や慢性疾患の予防に役立ちます

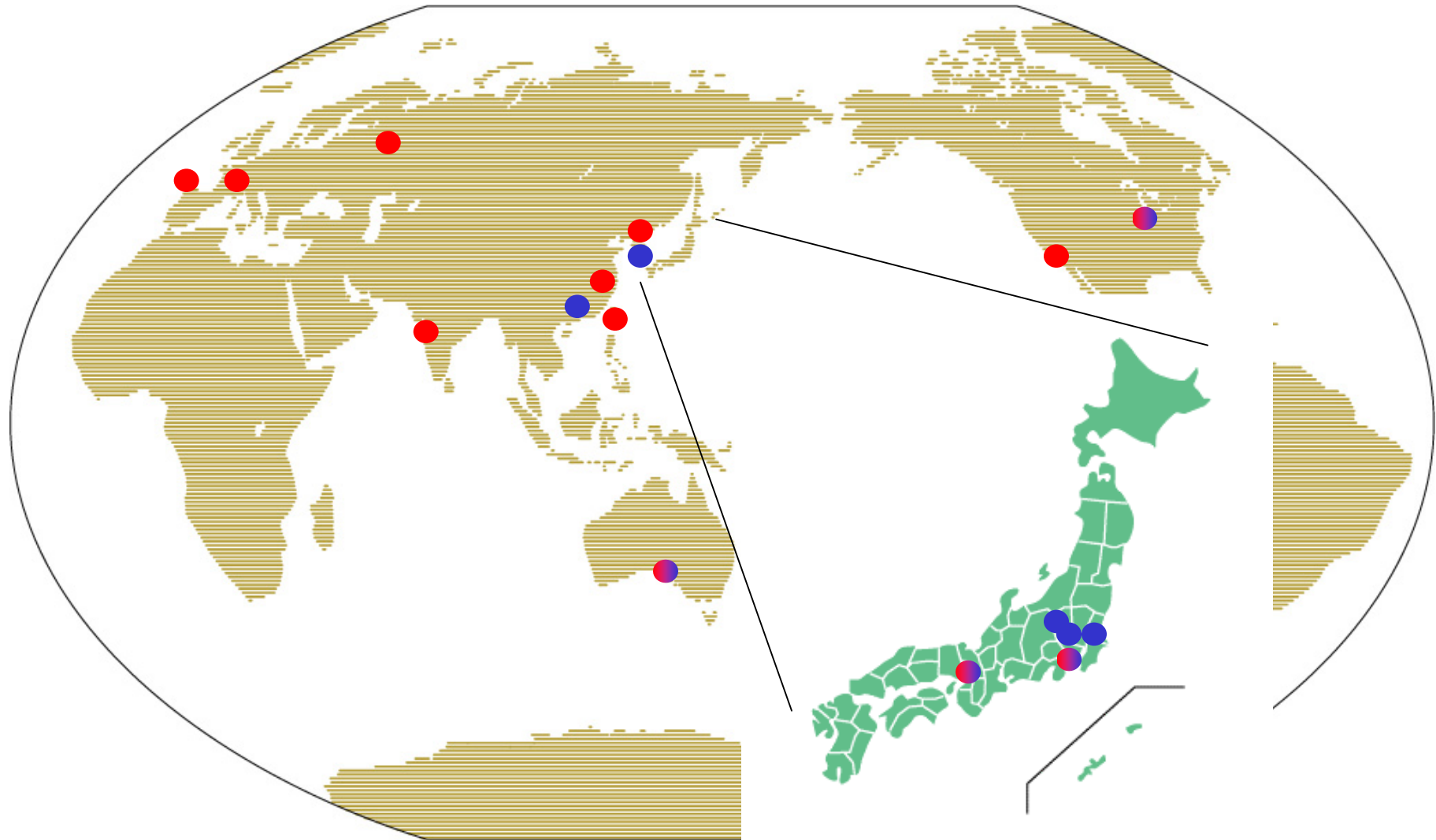


補足資料



- 1 グループの概要**
- 2 製品紹介（計測機器）**
- 3 製品紹介（計量機器）**
- 4 製品紹介（医療・健康機器）**
- 5 DSPシステムとは**
- 6 DSPシステムの採用事例－1**
- 7 DSPシステムの採用事例－2**
- 8 電子ビーム関連ユニット**
- 9 開発の状況**

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

- 生産・開発関係会社
- 販売関係会社

製品紹介（計測機器）

種 別	概 要	主 要 製 品
波 形 解 析	音・振動等時間的に変化する物理信号を収集および解析	波形解析システム、FFTアナライザ、データロガー
非破壊検査機器	超音波を利用して溶接欠陥や亀裂・腐食等を調査	超音波探傷器、超音波厚さ計
材 料 試 験 機	材料・部品の引っ張り圧縮強度や粘弾性・粘度を測定	引張圧縮試験機、動的粘弾性測定機、粘度計、摩擦摩耗試験機
電 子 計 測 器	プロからホビーや家庭まで、多種多様に取り揃えたデジタル電子計測機器	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、タイマー、温湿度計、直流電源、壁内センサーetc.
油 圧 試 験 装 置	油圧サーボ機構を応用した各種試験装置	油圧式疲労試験機、油圧式振動試験機、油圧加振機等
環 境 計 測 機 器	各種排気ガス濃度測定器を始めとする環境計測機器	エンジン排ガス計測機器、燃料電池関連計測機器、各種ガス分析計等



万能材料試験機



動的粘弾性自動測定器

車載型リアルタイム
振動・騒音解析システム

熱中症計



超音波探傷器

製品紹介（計量機器）

種 別	概 要	用 途 等
電子天びん	軽量の物体の質量を高精度に計量する機器で、最大0.001mgまでの計量が可能	医薬品や精密材料等を対象に、研究開発向けから生産・検査まで幅広く使用
電子台秤	中・重量の物体の重量を計量する機器で、防水、防塵、防爆等、様々な環境に対応	厳しい環境下で使用される産業用から家庭で使用されるものまで、幅広い製品群をラインナップ
インジケータ	計量センサから得た信号を質量や力としてデジタル表示、及び制御を行う	粉・粒状物体の自動計量システム、台秤、トラックの積載量を計量するトラックスケール等に使用
ロードセル	金属製の起歪体に加わった荷重による歪みを検出して、電気抵抗値に変換するセンサ	台秤、トラックスケール、フックに吊り下げて計量するクレーンスケール、その他特殊用途に使用



分析用天秤



防水電子台秤



クレーンスケール



ウェィング・インジケータ



デジタル・ロードセル

製品紹介（医療・健康機器）

種 別	概 要	主 要 製 品	特 徴 等
病 院 用 デジタル血圧計	医療機関 や高齢者 介護施設 向血圧計	携帯型自動血圧計	24時間の日常生活での血圧変動を測定
		血 圧 監 視 装 置	SpO2（動脈血酸素飽和度）と血圧を同時監視
		バイタルセンサ	血圧・体温・SpO2・ECG等バイタルサイン測定
		全自動血圧計	腕を入れるだけでワンタッチ操作の自動測定
メ デ ィ カ ル 計 量 器	医療機関 や高齢者 介護施設 向計量器	身長体重計	身長・体重をデジタル測定、肥満度等也表示
		ベッドスケール	治療時の体重変化を測定、監視、記録
		バリアフリー スケール	フラットな計量台、車イス乗車のままや、手すり につかまった状態で安全に計測
健 康 機 器	在宅での 健康管理 用機器	デジタリ 血 圧 計	上腕式 手首式
		超音波吸入器	血圧測定に不規則脈波検知、音声等も付加 小型・軽量サイズで外出先でも手軽に血圧測定
		体 重 計	温熱、加湿効果でノド、鼻の不快感を緩和
			50 g 単位、肥満・痩せの基準BMI也表示



DSPシステムとは

DSPシステム

■ DSPシステムの特徴

◇自動車等の複雑な製品の開発・生産現場において、開発期間の短縮・ローコスト化を実現する画期的なシステムです

つないでテストする



エンジンの試作品



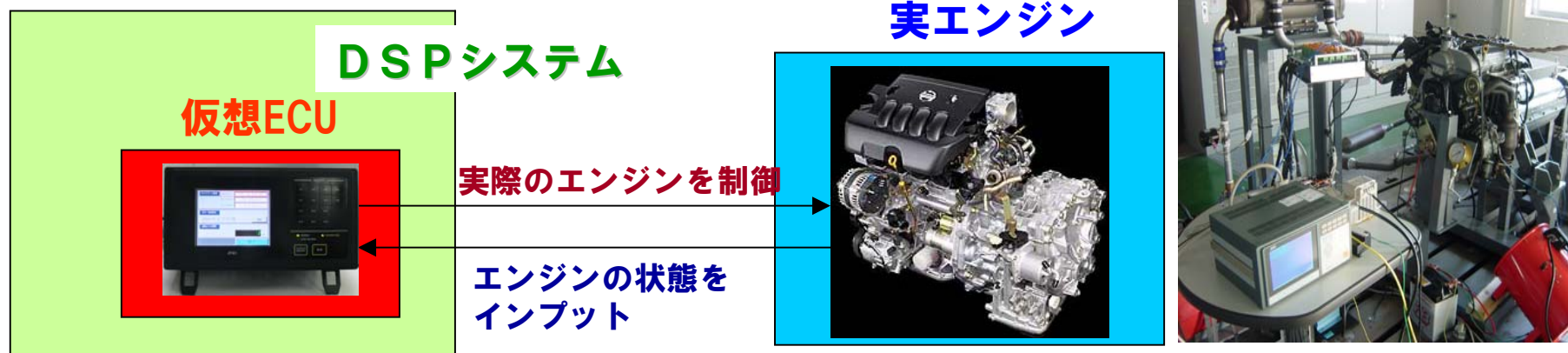
エンジン以外の車両部分をコンピュータにモデル化

エンジン以外の部分が完成していなくても、エンジンを実際の車両に搭載した場合を想定したテストを行う事が可能

DSPシステムの採用事例－1

RPT (Rapid Proto Type)

コンピュータ上にECUの試作モデルを作成して、実際のエンジンを制御してテストを行う



HILS (Hardware In the Loop Simulation)

コンピュータ上に仮想のエンジンや車両のモデルを作成して、試作品のECUのテストを行う



DSPシステムの採用事例－2

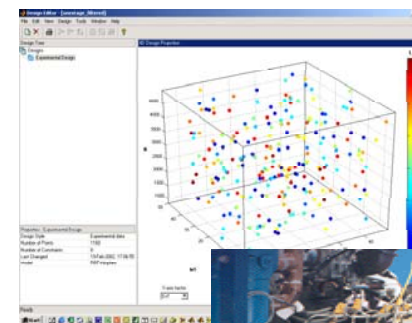
ORION

適合支援自動計測
ソフトウェア

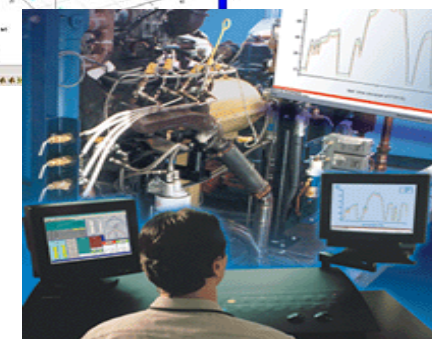
1. 適合とは

ECU開発プロセスで、ECUがエンジンや変速機などの制御を最適に行うためにECUの設定作業（チューニング）を行うこと。

実験計画



評価試験



2. ORIONの特徴

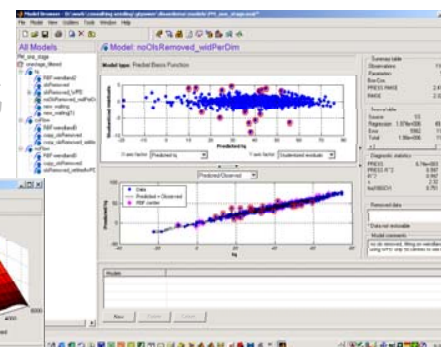
・フレキシビリティ

カスタマイズが容易で、ユーザーが計測アルゴリズムの作成等、各自の仕様に合わせて設定を変更出来る

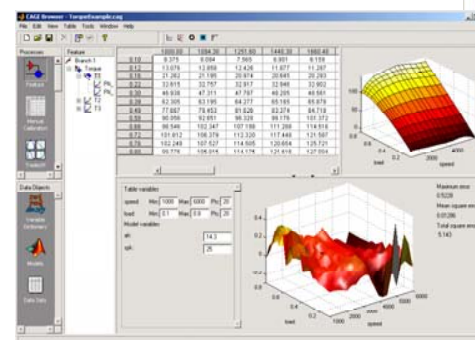
・オープン性

他のシステムとの接続が可能であり、今まで使用していた資産の有効活用が可能

ECUのモデル化



適合



電子ビーム関連ユニット

電子ビーム関連ユニット

微細な半導体の回路を描画するための手段として、主にマスク製造（半導体のネガの様なもの）に電子ビームが利用されておりますが、当社は電子ビーム露光装置に組み込む基幹ユニットを半導体露光装置メーカーに提供しています

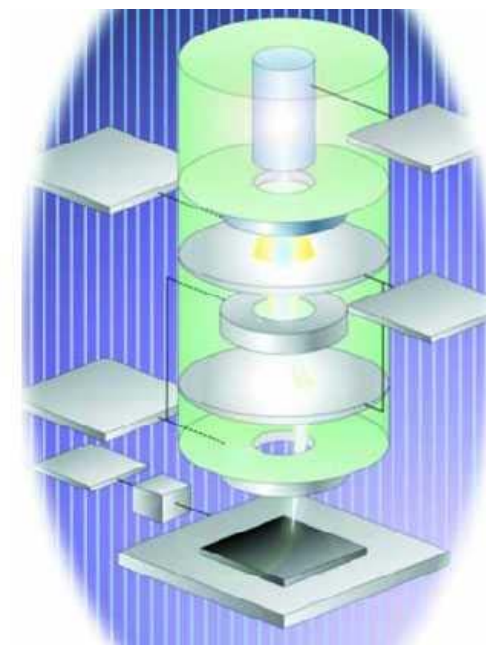
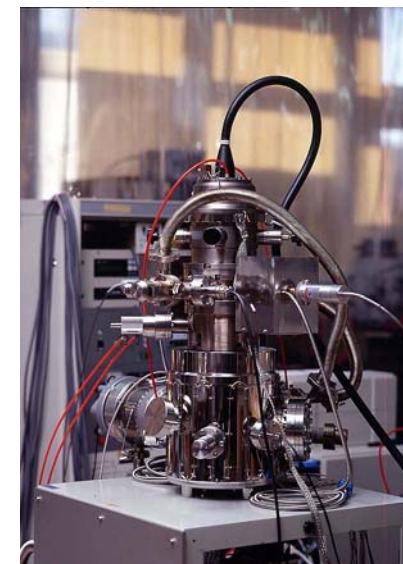
当社が提供する主要なユニット

- ビーム偏向回路

電子ビームの照射方向を制御するもので、精度・速度ともに世界最高水準です

- 電子銃

電子ビームを発生させる設備で、世界でもトップクラスの出力と安定稼働率を備えています



開発の状況

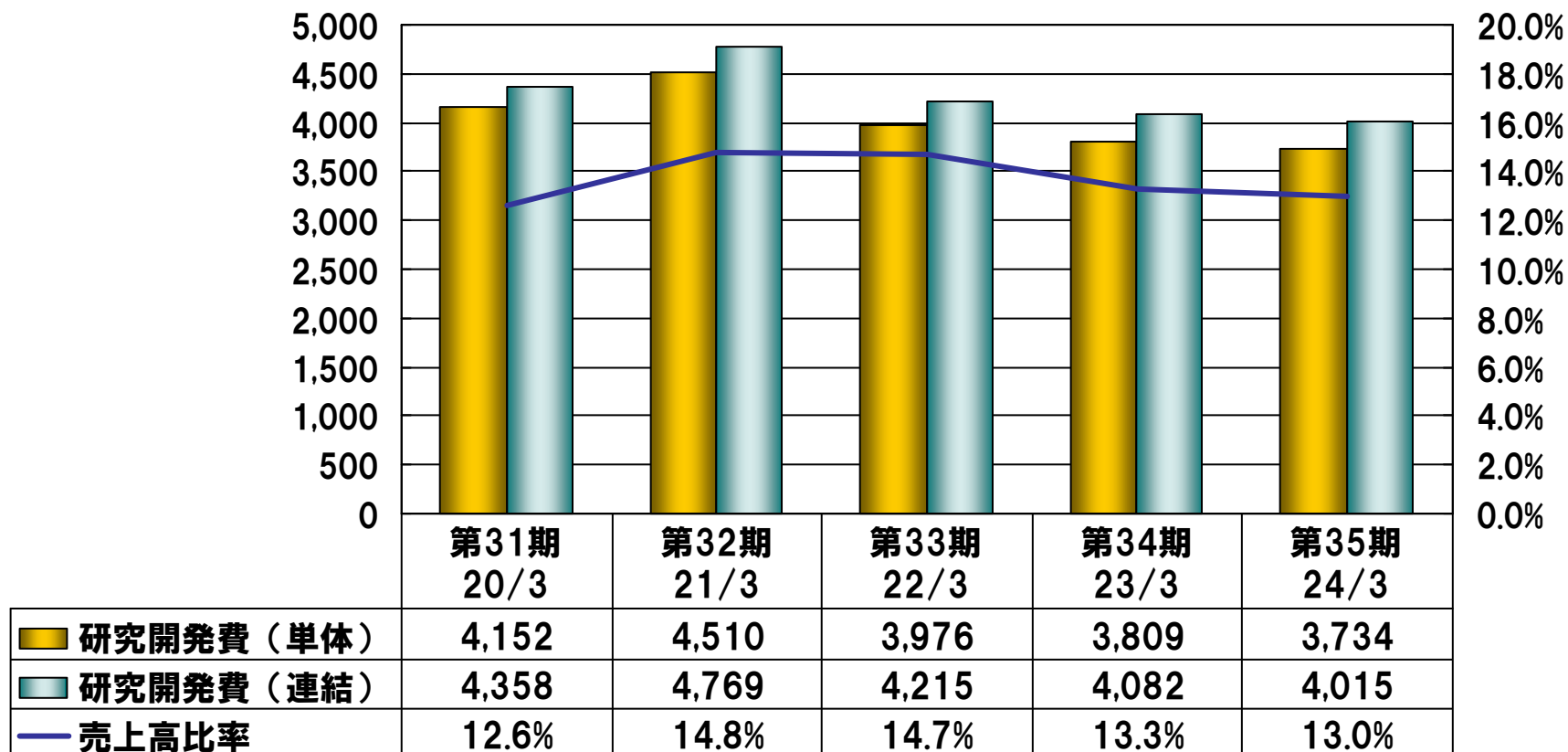


社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成24年3月末/ A & D 単体)

既存事業 141名 (44.9%) 開発人員比率
新規事業 173名 (55.1%) (単体) は48.8%
合 計 314名

研究開発費
(単位：百万円)



※売上高比率は連結売上で算出

